

2022年11月11日

投資家の皆様へ

T&Dアセットマネジメント株式会社

「T&D ベトナム株式ファンド」の基準価額の下落について

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

足許の市場動向と「T&D ベトナム株式ファンド」(以下、「ファンド」ということがあります。)の基準価額への影響に関しまして、下記の通りご案内いたします。

今後ともお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

◆ ファンドの基準価額

ファンド名	2022年 11月10日 基準価額(円)	2022年 11月11日 基準価額(円)	騰落幅 (円)	騰落率 (%)
T&D ベトナム株式ファンド	15,834	15,003	▲831	▲5.25

(騰落率は小数点第3位四捨五入)

◆ 市況情報

	2022年11月9日	2022年11月10日	騰落率 (%)
VN 指数	985.59	947.24	▲3.89

(小数点第3位四捨五入)

上記については基準価額への反映を考慮し、11月9日と11月10日と比較しています。

	2022年11月9日	2022年11月10日	騰落率 (%)
ベトナムドン(対円レート)	0.588	0.571	▲2.86

(ベトナムドンは小数点第4位四捨五入、騰落率は小数点第3位四捨五入)

上記についてはベトナム株式の値動きの基準価額への反映を参考に、11月9日と11月10日と比較しています。
為替レートは100ベトナムドン当たり、単位は円です。

出所:ブルームバーグ

◆ 足許の状況

11月10日のベトナム株式市場は下落しました。ベトナムにおいて、10月に不動産開発関連の非上場企業の社債をめぐる不祥事が報じられたことや、ベトナム国家銀行(中央銀行)による不動産向け融資の厳格化のもと、多くのディベロッパーが社債発行による資金調達を行うなかで資金繰りに苦戦する企業もみられることから、満期を迎える債券の借り換えが困難になるとの観測が強まり、市場心理を悪化させています。このような市場環境のもと、信用取引のマージンコールの圧力が強まり、不動産関連株や銀行株を中心に売りに押される展開となりました。

また、米国の10月CPI(消費者物価指数)が市場予想を下回ったことなどから急速な円高米ドル安が進んだことを受けて、通貨ドンも円に対し▲3%程度下落しました。

このような市況のもと、ファンドの基準価額が前営業日比で5%を超えて下落しました。

◆ 今後の見通し

ベトナムの不動産セクターの流動性に関する懸念や、世界経済の先行き不透明感などを背景に、当面は、ベトナム株式市場が変動性の高い展開となることが見込まれます。このような投資環境のもと、ポートフォリオのパフォーマンス安定のためキャッシュ比率を高めた状態としています。社債の問題については、社債発行企業においてデフォルト回避のための様々な手段が講じられ、より効果的な対策として政府の介入も想定されることなどから、ベトナム経済のファンダメンタルズに影響を及ぼすものではないとみています。

現時点での株価の急落はファンダメンタルズの変化を反映したのではなく、短期的なリスク回避の動きによるものとみられ、市場の過度なリスク回避姿勢が和らぐ局面では株式市場は落ち着きを取り戻すとみています。中期的には、世界経済の先行き不透明感が強まるなか、先進国における経済活動の減速を背景とした外需の減少が想定されるものの、観光セクターの回復の継続、産業の多様化がベトナムの経済成長のサポートとなるとみています。長期的には、経済成長を背景とした所得の伸び、中間所得層の拡大による消費需要の加速に伴って、株式市場についても安定的な成長軌道に乗っていくとみています。

このような見通しのもと、ベトナム経済の長期的な成長の恩恵を受ける銘柄、強固で持続可能な収益を生み出す力を持つ銘柄、魅力的なフランチャイズを有する銘柄、ファンダメンタルズの好転の恩恵を受ける銘柄への投資を継続します。

以上

※ 文中に引用した各インデックス(指数)の商標、著作権、知的財産権およびその他一切の権利は各インデックスの算出元に帰属します。また各インデックスの算出元は、インデックスの内容を変更する権利および発表を停止する権利を有していません。

当資料はT&Dアセットマネジメントが投資家の皆様への情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。また投資信託の取得をご希望の場合は、下記のご留意事項を必ずご確認ください、ご自身でご判断ください。

投資信託のお申込みに際してのご留意事項

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券、投資信託証券など値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)をよくお読みいただき、ご自身でご判断ください。

投資信託に係る費用について

◇投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料・・・上限 **4.40%(税込)**

信託財産留保額・・・上限 **解約金額の0.55%** または1口(設定時1口1万円)あたり **250円**

◇投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)・・・上限 **年1.98%(税込)**

その他費用・手数料・・・上記以外に保有期間に応じてご負担いただく費用があります。

投資信託証券を組み入れる場合には、間接的にご負担いただく費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの間接的な費用のご負担額に関しましては、その時々各投資信託証券の組入比率や取引内容等により金額が変動しますので、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳細につきましては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」でご確認ください。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、T&Dアセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をよくお読みください。